

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	日本ジャマイカ友好協会	事業名	日本、ジャマイカの青少年を対象とした文化交流による『お互いの違いを知り、認め合うこと』を促進する事業(人材育成事業)
-----	-------------	-----	--

実施内容	実施結果
・ジャマイカ文化交流行事※1の実施 ・2024年7月21日(日)(予定)、ミューザ川崎 市民交流室で、市民参加型の交流会の実施しました。 ※1ジャマイカ文化交流行事:川崎市のコンサート会場にて、ジャマイカ文化紹介、ジャマイカでの JICA ボランティアの活動の歴史、現行の活動内容の紹介、さらにゴスペルと日本の盆踊りのコラボダンスの実施。 背景として、2024年、日本とジャマイカの外交関係樹立 60 周年を迎え、それに向けた青少年向けイベントを、日本とジャマイカのコラボした音楽(ゴスペルと盆踊りイベント)を中心に開催しました。	100 名近い集客を実施し、予定の項目を実施し、『お互いの違いを知り、認め合うこと』の重要性を歌と音楽をとおして参加者全員に実感いただきました。

写真	課題と展望
	当初予定していた青少年の参加が時間帯の設定が夜間になったこともあり10%と低迷しました。 今後、実施時間を考慮した会場予約が必要と考えております。

団体名	日本ジャマイカ友好協会	事業名	日本、ジャマイカの青少年を対象とした文化交流による『お互いの違いを知り、認め合うこと』を促進する事業（人材育成事業）
-----	-------------	-----	--

実施内容	実施結果
・小学校での文化イベント※2 の実施 川崎市内の小学校で1月に、ジャマイカ文化イベントを実施しました。 ・※2 ジャマイカ文化イベント: ジャマイカ文化紹介、ジャマイカのダンスなどの異文化体験をとおし、異文化の理解を促進し、日本外の世界を体感する。	川崎市の小学校 1 校で、ジャマイカ大使館の協力によりイベントを無事完了しました。これにより参加した児童(約 200 人)が文化紹介、ジャマイカのダンスなどにとり異文化を体感し、『お互いの違いを知り、認め合うこと』の重要性を理解する一助になりました。

写真	課題と展望
	学校探しに手間暇がかかり、当初予定していた年間 2 件が 1 件のみとなりました。今後、イベント実施に向けた調整方法（安定した調整先の選定、提案内容の精査）を実施していきます。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	かわさき TS ネットワーク	事業名	かわさき TS ネットワーク -再犯防止のための地域づくり-
-----	----------------	-----	--------------------------------

実施内容

■研修会

第1回「地域で取り組む性的な課題のある人の支援を考える」7/20

講師: 齊藤章佳さん(大船榎本クリニック 精神保健福祉部長)

第2回「当事者と語るクレプトマニア」10/30

講師: 高橋悠さん(ASK 認定依存症予防教育アドバイザー)

第3回「ゲーム・ネット依存、クレプトマニアの具体的な事例とトラブルシュート」2/16

講師: ゲーム・ネット依存家族の会、丸山泰弘さん(立正大学教授)、高橋悠さん

■その他の助成金事業以外の活動

- ・TS ネットワーク全国大会をおおた TS との協力で開催(5/11)
- ・ごえん楽市2024参加(11/16) ・映画「プリズンサークル」上映会後援(11/23)
- ・大学連携事業により広報物作成 ・オンライン定例会(月1) ・個別事案対応

実施結果

① 年3回の研修会を通して目標会員数(100名)を達成することができました。

●会員人数: 108名(令和6年3月現在)

(研修会参加者: 第1回42名、第2回79名、第3回73名 合計: 194名)

② 研修会アンケート結果では参加者から非常に高い評価を得ることができました。

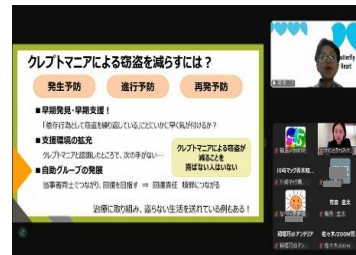
	第1回	第2回	第3回
内容はとてもよかった・よかった	88.9%	82.6%	95.8%
内容は普通だった・よくなかった	11.1%	17.4%	4.2%
生かせるところが沢山あった・あった	88.8%	91.3%	91.7%
生かせるところが少ない・全くない	11.1%	8.7%	8.3%

③ 第2期川崎市再犯防止推進計画に新規の民間の取組みとして掲載されました。

写真



第1回研修会



第2回研修会



第3回拡大研修会シンポジウム



課題と展望

【課題】

■会員のスキルアップと連携強化

今年度、目標会員数を達成し多くの人とつながることができました。これから具体的な TS 活動へつなげていくためには会員同士の連携強化と個々の学びを深めていく必要があります。研修会の在り方や内容を検討しながら進めていきます。

■自立を目指した団体運営

収支的に自立することを目指し、段階的な収益事業の検討が必要です。

【展望】

今年4月より施行される第2期再犯防止推進計画に新たな取組みとして掲載されました。今後も川崎市と保護観察所との一層の連携を進めます。そして、研修会や個別の事案を通してネットワークを拡げ、私たちが暮らす地域が“加害者も被害者もうまないまち”、“誰もがトラブルシューターになれるまち”となることを目指します。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	子育て支援グループ はぐツリー	事業名	子育て安心安全基地 ほっと
-----	-----------------	-----	---------------

実施内容	実施結果
・情報提供ボードの記入(来た人から順に、フリータイム) * 全回実施 1. <u>ストレスマネジメント教育</u>(身体の緊張とゆるめを体験し、心身のリラックス感を味わってもらう) 2. <u>簡単工作</u>(小さな子どもでも楽しめるスノードームを作り) 3. <u>産後の身体を整え、腰痛予防の為にピラティス</u>(自宅でも出来る簡単な運動) 4. <u>「アタッチメント」について</u>(臨床心理士より講義、安心安全基地になる意味の説明) 5. <u>クリスマス工作</u>(クリスマスリース作りと音遊び) 6. <u>褒める達人になる</u>(褒めることの大切さを学び、子どもや保護者の自己肯定感を高めるワークを実践)	全 6 回。 32 組 延べ 75 名参加。 1～3 回までは土曜開催であった為、両親とこどもの参加者も多かった。アンケートや意見交換の場で平日開催の希望があり、以降は平日に開催し参加者も増えた。 情報提供ボード「みんなのマップ」を作成。付箋の数が増える毎に魅力的な街であることが可視化される。 1. 「リラックスする呼吸」を一緒に体験。アンガーコントロールになることを学んだ。 2. 2 歳の子はパーツを選んで作る。家庭でも作れるようコツを伝える。 3. 父親も2名参加。「家に帰っておさらいし、今後も続けたい」との感想を頂く。 4. 相談会で悩みを共有。障害児を連れて両親で参加、その後継続利用に至る。 5. 「没頭して制作出来た」との感想が複数あり。会場を初めて知ったという方もいた。 6. 「褒める・褒められることが少なかったことを実感した。」との振り返りが出来た。

写真	課題と展望
   	アンケートや講座後、「また参加したい」「次回はいつやるのか」といった要望が多く、実施した内容については満足度も高かったことが伺えた。団体や講座についてチラシ広告だけではなく、ホームページやインスタを立ち上げて情報提供を広く行ったことで、保護者が安心して参加出来ることにつながった為、今後もコンスタントに情報をあげていく。 実際に実施してメンバーの仕事や家族の健康等の理由により日程調整が難しいこともあったが、無料の会場を利用し材料費等は受益者負担にして今後も継続して行う。 また、実施内容やグループの設立、助成金を受けること等のノウハウ等を利用者に伝えた。利用者が「自分達にも出来る」と、それぞれの家庭や集まりで実践していけるような伴走者になりたい。相談の中には保育についての悩みも多かった為、グループ内で支援する必要を感じ、次年度体制を整える。 何より、各々教育や福祉分野の専門職員がグループを作り、「自分達も社会貢献出来た」という自信につながり、元気になったことが一番の収穫となった。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	1つぶの種まき	事業名	自分と大事な人を大事にできるコミュニケーションと性教育の情報発信事業
-----	---------	-----	------------------------------------

実施内容	実施結果
■年3回の性教育勉強会を開催 ・2024年7月10日 テーマ:性教育初めの一歩。家庭での性教育は何から始める？ ・2024年10月24日 テーマ:性教育初めの一歩。家庭での性教育は何から始める？ ・2025年1月18日 テーマ:親子で学ぶ性教育はじめてのいっぽ 就学前～小学生の保護者向け、親子向けに、当日から取り組める性教育について講義およびワークを実施。参加者様同士がディスカッションする時間も設けた。	■参加者 1回目10名、2回目18名、3回目5組(大人5名、子ども5名) 合計38名(大人33名、子ども5名) ■アンケート結果 ・29名/33名(アンケート回収率87.9%) ・イベント満足度91.9%、「イベントに参加して性教育のイメージは変わりましたか？」とても変化した、やや変化した90% 「性教育は恥ずかしい、難しいなどマイナスのイメージがあったが、体の知識だけでなく、心や存在を大切することも性教育なんだと改めて知ることができた。」「思っていた以上に日常の様々な点から性教育を意識できると思った。」「子どもと性の話が自然にできるようになった。」とのお声をいただいた。
写真	課題と展望



- 課題
- ・告知および集客
目標人数に到達しなかった。幼稚園、保育園へのチラシ配架にて、ご新規の方に来ていただけたが、こども未来局後援がないこと、園の方針で配架を断られたところが半数あった。
 - ・個別のお困りごとへの対応
実践の継続性の難しさや親子で学べる内容での開催希望が多く聞かれた。
- 展望
- ・次年度以降もかわさき市民公益活動助成金事業およびすくらむ21協働事業に応募およびイベントの実施、プレスリリース、こども未来局後援などを通して、信頼と実績を積み重ねる。
 - ・保護者が性教育を継続的に学ぶことができ、共に取り組む仲間づくりとしてオンラインで交流会および勉強会の場作りを進める。
 - ・親子で一緒に学べる勉強会を企画

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	CoderDojo 武蔵小杉 (コーダードジョーむさしこすぎ)	事業名	地域子どもプログラミングクラブ(定期活動) & 武蔵小杉ロボットフェス(講演会)事業
-----	---------------------------------	-----	--

実施内容	実施結果
□月1～2回 子どもプログラミングクラブ活動実施 (子どもたちのスキル獲得・作品づくり支援) 目的:子どもたちにプログラミングやロボットなどものづくり・工学・科学の楽しさを体感してもらい、将来の職業や人生の楽しみ方の選択肢を増やすことに貢献 場所:かわさき市民活動センター会議室／中原市民館会議室・実習室 □集中活動(夏季～秋季) 目的:ロボットコンテストなどに出場したい意欲のあるメンバーに集中的にノウハウを獲得してもらう ・ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト応募支援 (中原市民館で特別ワークショップや練習会を実施) ・メンター(大人のボランティアメンバー)の学習・啓蒙活動としての大人向けロボット開発勉強会やコンテスト出場 □講演会: 武蔵小杉ロボットフェス ・ロールモデルとなる著名なエンジニア・研究者を招いて講演会を行い、普段通っていない方にも触れ合う機会提供を行う	□定期的月に1回以上のプログラミングクラブ活動を実施 ・マインクラフト(3D 創作ツール)や Scratch(ビジュアルプログラミングツール)を使った創作活動 →参加者で構成される CoderDojo 武蔵小杉チームがマインクラフトの大会「マイクラカップ」で奨励賞受賞、また2年間通った中谷さん兄弟がデジタル川崎市を創作し川崎市市長表敬訪問 ・3D プリンタを用いた創作活動、ロボットプログラミング、micro:bit を使ったフィジカルコンピューティングなど、中学生～高校生レベルの活動を積極導入 □小学生ロボコンへの出場希望者向けにワークショップを実施 →常連メンバーの知沙さんが小学生ロボコン優勝 □武蔵小杉ロボットフェス 2025(1/13)実施:55 名参加、満足 92%やや満足 8%、次回希望 100% ※活動レポート詳細は note にて:https://note.com/akichika/n/n6ccb0c502d0a

写真	課題と展望
----	-------

▼月1回 プログラミングクラブ事業



▼年1回(1月) ロボットフェス事業



□定期活動・集中活動:

・毎回は参加できない方、親の付き添いが難しい方など機会提供を強化するため、配信や録画などを強化する→ボランティアスタッフの配置最適化や次回助成事業採択での実現を検討

・また、現状は指導者の属人的なスキルに依存しているため、ドキュメント化やパッケージ化により属人性を下げ、横展開しやすくする。具体的には、ロボット工作やプログラミングを強化するためのキット化、ノウハウ横展開のためのテキスト化・書籍化も検討する。これにより小学生ロボコン等に参加しやすくしてメンバーが目標をもって活動しやすくすることを狙う。

□講演会:

・期中にて当初予定していた講演者の方の都合がつかなくなり、急遽別の方の依頼をすることになったため、スケジュールに合わせた会場の変更や告知を含めて非常に調整が大変だった。次回以降は会場は約1年前～半年前、アポイントは遅くとも半年前から確定しつつ、定期的にリマインドしつつバックアップも検討しておくことで円滑な運営に努める。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	着付けボランティア6月のパレット	事業名	今年こそ！ゆかた着ようよ
-----	------------------	-----	--------------

実施内容	実施結果
地域行事へ参加のきっかけとなり、地域の方と参加者が触れあう一助となるよう事業を企画 新城神社夏の祭礼・盆踊りの開催に合わせて実施(8/1、8/2) ゆかたお着付けボランティア・・参加費、貸出しは無料 小学生以上の女性対象/新城地区とその近隣地域にお住まいの方とする 場所:川崎市立新城小学校特別活動室 ・個人またはグループへの着付け ・ご自身で着たい方へのレクチャー ・お相手へ着付けたい方へレクチャー 3項目で実施	参加者 15 名 アンケート内容(回答 10 件) (☆1～☆5段階でご回答ください) Qイベントはいかがでしたか ☆5・・・10 件 Q地域活動参加のきっかけになりましたか ☆5・・・10 件 感想コメント抜粋 親子で参加の方▶子どもに着付けて楽しかった。お祭りで着姿を友達に褒められた 自装レクチャーの方▶後日の花火大会やイベントにゆかたを着てお出かけしました 文化祭の茶道部でゆかたを着るため習いに来ました。勉強になりました。 イベント後にもゆかたを着ることに繋がりました。

写真	課題と展望
    	昨年度に比べ参加者が増えたため、時間配分の調整に手間がかかりました。申し込みフォームについて見直しが必要と感じました。 当日を迎える前に実施して欲しいとの声や、子どもたちに向けてレクチャーの相談があり、次年度は試しに行えたらと考えています。 同地区の勉強会からお声掛けいただき参加しました。活動紹介で内容を知ってもらい、チラシ配付先が広がることに繋がりました。 長く続けられる事業にするために、実施内容の充実に重きをおきたいです。

団体名	たかつマンション防災ネットワーク協議会	事業名	川崎市内、分譲マンションの防災普及及びその啓蒙活動
-----	---------------------	-----	---------------------------

実施内容

- 組織結成後、体制が整わない内の活動開始となり少々の混乱があった。
- ・協議会メンバーが夫々に推進する防災活動を開示し、討議の中で協議会が指向する安全・安心の在宅避難を明らかにして、これを共有した
 - ・協議会の認知度が低いことから、賛助マンションを中心に定例の場のコンサル、その後の車座集会を経て、住民の啓蒙活動が自主的に進んだ。
 - ・期中には、講演会等の認知効果で、徐々に依頼件数が増え、区を超えた依頼も舞い込むようになってきている。
 - ・現状は、現有能力でこなせているが、今後の依頼件数の増加と区を超えた依頼への対応能力については不安を残す。
 - ・協議会の対応キャパを増大する施策が早急に求められることになる。

実施結果

- 活動開始早々の混乱の中、活動範囲を高津区に絞ったことで、意外とスムーズに活動に入れた。活動の中から多種多様な推進課題を顕在化することもできた。
- ・コンサル、車座集会を開催し、2つのマンションが活動の緒に着いた。
 - ・安全・安心の在宅避難を推進するリーダーを3マンション確保できた
 - ・地域的に特長的な課題があり(津波被害、土砂災害、高層建築)、配慮した取り組み体制が必要となることもわかった。
 - ・防災への潜在的希求度は極めて高く80/100人であった。にも拘らず今一つ防災が進まない背景を深く掘り下げる必要を強く感じた。

写真



課題と展望

- ・協議会の主旨、活動の認知度を上げ、会員マンションの参加拡大とマンション防災の重要性の認識を高める。
 - ☛ ホームページの開設で、簡便、気軽に情報アクセスの手段を提供
- ・啓発、支援活動の機会の増加に対応できる体制を協議会に定着させる。
 - ☛ 主担当制で負荷分散して負荷増に対応する
 - 会員マンションの利得を明らかにして会員増を狙う。
- ・関連部門との連携強化で防災力を向上する。
 - ☛ 区役所、消防署、周辺町内会(避難所)、医療機関との課題共有
 - ライフライン(東電、東ガス、上下水道局)との連携を強化する。
- ・川崎市全域への活動拡大の戦略を検討開始する。
 - ☛ 活動拡大の、展開、運営、定着の在り方の検討を開始する。

団体名	おれんじあさお	事業名	2024認知症共育活動 in 麻生区
-----	---------	-----	--------------------

実施内容

1. 認知症サポーター養成講座の月次開催

- ◆ 『毎月かならず麻生区内のどこかで開催』、をスローガンに、毎月、計13回実施した。
- ◆ 今年度は主に区内に10あるこども文化センターに協力を仰ぎ、全センターで実施。
- ◆ 内容については、3月に岡上で開催の講座を除き(この回のみキッズ向け)、中高年層 ≡ 認知症予備軍向けを意識したものとした。主なメッセージは、①備える、②本人主体である。
- ◆ 今年度よりアンケートを実施し、今後情報を希望される80名からメールアドレスをいただいた。

2. 勉強会の月次開催

- ◆ 実施したテーマは以下のとおり。(注) 以下、網掛けは外部講師
- ① ユマニチュード ② 当事者メッセージ(丹野智文さん、他) ③ 意思決定支援
- ④ 竹内孝仁先生特別講演：新しい非薬物療法 ⑤ 体力・知力で地域との交流
- ⑥ 認知症基本法&高齢者大綱 ⑦ 本人座談会(丹野智文さん、他)
- ⑧ 稲田秀樹氏特別講演：『認知症の人の心の声を聴いていますか』
- ⑨ 認知症世界の歩き方 for サポーターズ ⑩ 在宅介護(杉山孝博先生監修)
- ⑪ 渡辺典子氏講演：若年性認知症

実施結果

1. 認知症サポーター養成講座の月次開催

- ◆ 年間で受講者数は、約180名。目標の200名に達せず。
- ◆ アンケートからは内容が良かった旨、フィードバックをいただいた。『わが事』として捉えてくださったとの反応も多かった。
- ◆ アンケートでメアドをいただき、つながった方は80名程度。その方の中から、勉強会や見学会、買い物ツアーに参加されるなど、次の活動につながった方も10名弱、いらっしゃる。

2. 勉強会の月次開催

- ◆ 年間で受講者数は、約150名。目標の100名を達成。
- ◆ 外部からの講師招聘時の方が圧倒的に(3～4倍)集客力が高かった。他の回はメールでテーマを含示した開催案内を流すだけだったが、外部講師の回については個別にチラシも作り、広報に努めたことも大きかった。
- ◆ 当初決めてあったテーマはあくまで暫定のものであり、適宜変更することは想定していたが、最終決定したテーマのアナウンスが直前になったり、説明が足りなかったりして内容が伝わらなかった。

写真

↓ 2024. 5. 20. 認知症サポーター養成講座@柿生こども文化センターの様子



2024. 8. 20. 竹内孝仁先生 特別講義の様子 ↑

課題と展望

1. 認知症サポーター養成講座の月次開催

- ◆ 思ったように集客できなかった。対象者をある程度特定し、そこに焦点を当てた内容である旨きちんと示した広報を、よりていねいに行う。
- ◆ ほぼ一貫した内容、構成で実施してきたが、毎回少しずつブラッシュアップしているうちに肥大化してしまっている。内容、構成、時間配分などを今一度再検証する。
- ◆ アンケートで当団体とつながった方々への個別のアプローチをより丁寧に行う。

2. 勉強会の月次開催

- ◆ 1年分のテーマを年度初めに決めることはなかなか難しい。今年度のように、暫定の計画を適宜変更していくことは致し方ないが、それをきちんとていねいにアナウンスする必要がある。チラシ作成もその一つである(今年度は外部講師の回のみで作成、他はメール告知のみ)。
- ◆ 集客だけのために外部講師を招く必要はないが、内輪での勉強会／輪講的なものだけではなく、外部の知見、経験談に触れる機会は重要であるとの認識に立ち、ネットワークを活かして外部講師招聘の機会を増やす。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	川崎ロケット教室プロジェクト FUEL	事業名	モデルロケット教室の実施
-----	---------------------	-----	--------------

実施内容

2025 年 3 月までに植松電機のモデルロケット教室を川崎市内で1回開催し、20 名程度の参加者に自ら挑戦することや夢を持つことの大切さを体感していただくことを達成目標とする。開催するモデルロケット教室は、川崎市の中学 3 年生の道徳の教科書にも取り上げられている「植松電機」代表取締役である植松努氏の考案した内容である。本物と同じ構造のモデルロケットを参加者が自ら作り、自らスイッチを押して打ち上げ、落ちてきたロケットをキャッチするまでを体験する。長さ約 40cm と小型のモデルロケットながら、発射すると約 0.3 秒・時速 200 km で上空 40m に達し、その後パラシュートで降下してくる。本団体は植松電機認定団体であるUEパートナーとして安全に教室を実施する。

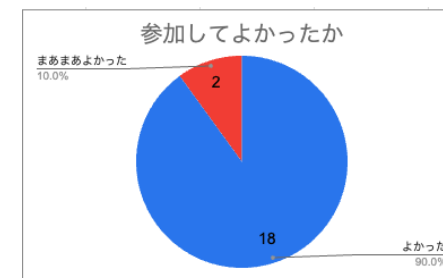


実施結果

・2024 年 8 月 11 日に等々力緑地にてモデルロケット教室を実施し、20 名の方にご参加いただきました。

・参加者 20 名に「参加してよかったか」のアンケートを実施。「よかった」18 名、「まあまあよかった」2 名の回答をいただき、参加者の満足を得ることができたと考えられる。

・感想として、「非常に良い体験ができた」「ロケットを飛ばす楽しさだけではなく、人生観も学ぶことができた」「自分で作ったロケット自分で飛ばすことができ、とっても嬉しかったです」といった感想を得ることができ、モデルロケット教室を通して参加者に満足度を得ることができたと考えられる。



写真



課題と展望

【課題】

- ◇開催時の情報発信 …開催時の内容に興味を持てただけの方への情報の周知
- ◇資金集め…継続的な活動のことや参加費をより安価にすることから参加のしやすさの実現へ
- ◇開催場所の確保 …広さのある敷地を必要とすることや発射時に火薬を使用することから川崎市内において開催ができる場所の確保

【展望】

- ◆開催場所の確保
→今年度モデルロケット教室の実施ができた等々力緑地での開催に加えて、寺子屋事業や学校開放への登録を試みることから市内での 2025 年度の開催回数を 3 回以上を目指す。
- ◆開催時の情報発信
→かわさきイベントアプリや SNS やなど活用できる情報発信方法を行い、年内で 60 名以上の方に参加いただけることを目標とする。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	かわさきハブステーション	事業名	「スポーツとお笑い」ここから繋がろう！」
-----	--------------	-----	----------------------

実施内容	実施結果
2024年11月17日 なかはら福祉健康まつりにてスタンプラリーのポイントとして、ウオーキングフットボールの体験ブースを開催。	午前 55名 午後32名 3歳から70代の方が歩いてボールを蹴りゴールにシュートする体験をして、楽しむことができた。(インタビュー結果より)
2025年1月18日 中部リハビリテーションセンター体育館にてウオーキングフットボールのイベント開催。お笑い講座の同時開催。	午前 42名 午後21名 小学生、知的障害のある方の通う通所施設、車いすの方、地域の高齢者などの様々なバックグラウンドを持つ方が参加して、その場で集まった方とチームを組みゲームを楽しむことができた。(聞き取りアンケートより) 中盤には隣り合わせに座った方とコンビを組み漫才を作るお笑い講座を開催して発表した。

写真	課題と展望
   	なかはら福祉健康祭りでは小さなお子さんからお年寄りまで参加したので、転倒しないようにそばで見守る必要があり、受け付け、スタンプラリーの処理、参加賞を渡す等の当日ボランティアの人数が足りず安全に体験してもらう見守りが手薄になりふあんなところもあった。 ウオーキングフットボールのイベントは多くの方に参加してもらえたが、地域住民の方の参加が少なく、外国人の参加が無かった。お笑い講座は参加者は概ね楽しむことができていたが、重度の障害のある方たちの参加は難しかった。 ウオーキングフットボールのイベントの広報活動をする中でイツコムやタウンニュースの方々とながり TV放送され、記事でのイベント周知と当日の様子も掲載してもらうことができた。広報活動は進めることができたが、ボランティアや参加者の層を広げるのが今後の課題。 課題を解決する方法を検討しながら、継続して人と人とながることができるツールとして、ウオーキングフットボールのイベントを継続して開催していけると良い。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	キッズパレット	事業名	キッズパレット
-----	---------	-----	---------

実施内容	実施結果
7月よりメンバーの打ち合わせ 練習 チラシ配り (親子リズム体操)無料 内容＊親子リズム 製作 ふれあい遊び 手遊び お楽しみ 日時＊10時～11時 月2回 木曜日 場所＊スタジオオブエルタ 中原区新丸子東2丁目 890-7	12月26日 1組 参加 2月8日 ララテラス無料イベント 手作りおもちゃ(でんでんだいこ)28組参加 2月13日 サードアベニュー(無料)親子ふれあい遊び 7組参加

写真	課題と展望
     	① 親子リズム体操の広報の仕方考えないと参加者が増えない ⇒6月ララテラス(はぐくみじかん)への参加 手作りおもちゃは0歳～2歳児向けの物を用意する。 ⇒7月20日に行われるなかはらっぱ祭りへの参加 ② 行っている場所の問題 ⇒子供連れていきやすい場所 交通機関の良い場所への変更を考える ③ 川崎市で活動している団体との繋がりをつくる。 ⇒なかはらっぱ活動会議への参加

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	犬蔵中学校区子ども食堂『にじいろポカポカ』	事業名	子ども食堂
-----	-----------------------	-----	-------

実施内容

◎2024 年 12 月～3 月まで下記の日時と場所で子ども食堂を開催しました。

※地域に孤立する子ども、ひとり親世帯、並びに貧困家庭などに安心安全な食事や居場所の提供を行う。

※ボランティアの学生などと宿題をみたり、遊び相手をする。話の聞き相手になったり、相談にのる。

～・～・～・～・～・～・～

☆南平台集会所 第一

☆毎月第 2 金曜日 15:30～20:00

☆18 時～19 時 食事提供

実施結果

◎孤食をなくす、地域交流、子どもの居場所、親からの相談

※役所の方から支援の必要な方へ声をかけて頂いたり、ここに来た子どもが次々と友だちを誘い、そこから広がっていったのと同時に、掲示板、回覧板、タウンニュース、地域の広報誌などでも広報して頂いたので、徐々に広がっていった。

※ひとり親世帯の方や、10 代の母から相談を受け、役所の方へ繋げられたり、同じ境遇の方同士で交流する姿が見られた。

※独り暮らしのお年寄りが誘い合って来ました。

※支援が必要な大人も何人か来ました。

写真



課題と展望

課題: 予想を上回る程、たくさん来てくれるので、面倒をみるボランティアの人数を増やしたい。

展望: 支援してくださる方が、今年度に加えてさらに来年度は増えます。それを受けて子ども達へのイベントを企画する予定です。

☆花火

☆ハロウィン

☆クリスマス会

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	菅エイサー結	事業名	『菅エイサー結』による地域貢献事業及び青少年育成事業
-----	--------	-----	----------------------------

実施内容	実施結果
① 定期練習会(毎週1回=28回) 菅中学校体育館で毎週金曜日 19時~21時に、「エイサー」の演舞練習 不定期で多摩スポーツセンターでの「エイサー」の演舞練習 ② 地域イベントへの出演 八雲神社祭礼奉納演舞、子之神社祭礼奉納演舞、菅ふれあいフェスタ演舞 ③ 地域施設への貢献事業 星の子愛児園への演舞協力、菅中学校バザーでの演舞及びふれあい事業 ④ 講師を招き、今までの定期練習会の内容に、菅エイサー結のオリジナル演舞の作成及び練習を加える。	① 週1回、継続的な練習により、エイサー演舞レベルの向上に加え、練習に参加しているメンバ、特に、子供たちの健康増進をはかれた。 ② 地域のイベントに参加することで、新たに3名の新規メンバーが加わった。その盛り上げが評価され、主催者等から感謝の言葉をいただき、次年度の出演の依頼をいただいた。 ③ 地域の中学校(菅中学校)への訪問演舞で三年生約100名が参加し、沖縄の伝統芸能について理解を深め、情操教育に役立てた。エイサーは太鼓を叩きながら大きく演舞するなど、体全身を使うため、星の子愛児園、菅中学生および子供メンバの健康増進をはかれた。 ④ 講師による動画やオンライン指導により、定期練習会の充実を図れた。沖縄方言による指導は、子供たちには文化的な側面を感じる機会となった。更に、川崎の要素を入れたかわさき踊りのエイサーを実現した。来年度発表し、川崎と沖縄の相互理解に寄与すると期待している。

写真	課題と展望
 子ノ神社祭礼奉納演舞  菅中学校での演舞およびエイサーワークショップ  菅ふれあいフェスタ演舞  八雲神社奉納演舞  先生の振り付け指導	・今年度行っている活動(定期練習、訪問演舞)を継続・拡充する。 ・地域貢献のための演舞活動の場を広げる。星の子愛児園や菅小寺子屋への訪問演舞を新たに計画する。 ・沖縄県那覇市、今帰仁村との連絡を続け、地域間交流の機会を計画する。 ・沖縄在住の講師による指導の受講を継続し、エイサーの指導力を高め、地域での演舞の際に体験活動を取り入れ、子どもたちへのエイサー指導を行い、合わせて地域住民の健康増進を促す。 ・収入を安定化し、現在個人で購入・支出している費用を、経費計上する。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	津軽三味線を楽しむ会 haru	事業名	津軽三味線 ワークショップ（わくわくプラザ、こども文化センター）
-----	-----------------	-----	----------------------------------

実施内容	実施結果
犬蔵小学校 わくわくプラザ津軽三味線演奏会 7月28日 白幡台 わくわくプラザ津軽三味線演奏会 7月30日 白幡台 こども文化センターでのワークショップ 8月6日～8日 参加費無料 講師 小山貢貴 小山貴永 津軽三味線ワークショップ 宮前市民館 1月31日午後2時～3時半 参加者 10名 50代～80代 男性3名 女性7名 第一部 演奏 10曲程度 第二部 ワークショップ「さくら、さくらを弾いてみよう」	・演奏会においては大変好評でした。子ども文化センターで3日間、のべ20名が三味線の体験をし、「さくら、さくら」を最終日に合奏しました。中にはもっと難しい曲に挑戦したいという子もいました。親子でワークショップの説明を聞いた方もいました。、また遊んでいる最中の中学生なども三味線の音を聞きに集まったりしました。「もっとやってみたい」「次はいつあるの？」などの声もありました。最終日はピンゴ大会なども行い大変盛り上がりました。 ・90%の方がこのイベントに参加することによって心身の健康に役だったと回答されました。詳細については添付のグラフを参照 1時間半という予定通りに開催でき、予約された10名の方々がすべて参加し、大変喜んでいただけました。楽器が5台しかないため、5名ずつ2回に分けて三味線体験を行いました。

写真	課題と展望
 さくら、さくら 三味線で市民10人が体験	・貸し出せる三味線の台数が限られているため、一度に教えることができるのは3人程度、残りの3人は待っている間に英語でカルタなどしてもらいました。もう少し台数があると人数が増えても対応できると思います。このときはアンケートを取っていませんでしたので、次回にはアンケートをとるようにして満足度の調査をしたいと思います。 ・ イベントの早めの告知、効果的な宣伝が必要。（今回は3週間前の告知） ・ 定期開催にする方が集客しやすいと思われます。（より計画性が必要） ・ 今回のイベントを開催したことで、チラシをみた方から五月開催の「みやまえ JAM」という大規模なイベントから出演依頼がきました。集客の心配なく開催できるため、今後はこのような演奏会に参加することを増やせば和楽器に親しむ人を増やすことができるのではないかと考えています。

タウンニュース記事2月14日号

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	靴フィット研究所	事業名	理学療法士が歩行解析と靴のフィッティングを提供し、地域住民が100歳まで歩ける社会を目指す事業
-----	----------	-----	---

実施内容

R7 年 2 月 8 日
会場: 川崎モアーズ 5F ハウジュブラザ様店舗内 10 時～ 11 時～
定員: 23 名 × 2 回 対象者: 川崎駅周辺在住の高齢者
【理学療法士が教える! 100 年歩き続ける足の育み方】
【内容】
・足の重要性と身体について
・靴の重要について
・正しい靴の選び方
・靴の試し履き、体験コーナー

R7 年 2 月 22 日 18 時～
会場: 麻生体育館 対象者: 青少年
【内容】
・バランスチェック
・足の把持力チェック

足の成長の評価に必要な、足のアーチのチェックを理学療法士が評価し、
アーチの形成に必要な筋力の評価に足指の握力チェック実施した。

実施結果

第一部・第二部ともに満員御礼で 46 名の方が参加。
正しい靴の選び方が分からないという声が多く、
正しい靴のサイズからずれている参加者が多かった。
また、体操の需要も多く
外反母趾や扁平足など、足のトラブルを抱えている人に対し
体操指導も実施。
次回は、ウォーキングイベントを実施して欲しいなどのお声を頂いた。

日頃から、柔道を実施していることもあり、
足の握力は、全国平均値よりも高値を示した。

細かい評価結果としては、親趾～中趾にかけての握力はあるが
薬趾・小趾の握りが弱い子もあり
片足立ちのバランス能力に影響が出ていたケースもあった。

万遍なく、趾を握ることが出来ると
正常なアーチの形成に繋がるため、自宅での体操を伝達した

写真



課題と展望

【課題】

- ・川崎市の各地でイベントを開催していきたい、横の繋がりを広げる必要あり
- ・マンパワーが足りないことがあるので、他団体の方とタイアップして実施したい

【展望】

- ・活動拠点を増やしていき、地域住民の方に啓蒙できるようにしていきたい
- ・横の繋がりとしては、地域包括支援センター、地区センター、障害支援課など
介護予防に注力されている方たちと一緒に広めて行きたい
- ・この団体で学んだことを更に広めてくれる同士や受講生達を育成していきたい

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	かわさきキッズゲルニカ	事業名	かわさきキッズゲルニカ
-----	-------------	-----	-------------

実施内容

キッズゲルニカは、ピカソのゲルニカと同じサイズ(3.5M×7.8M)に、こどもたちが平和の絵を描き、各地で展示し多様性を認め合うことで平和を啓発する世界平和アートプロジェクト。1995 年以来、50 カ国(地域含む)で 200 点以上のキッズゲルニカが制作されている。このかわさきでの活動の窓口になるべく 2023 年 4 月に立ち上げた。1 年目の 2023 年は、川崎市平和館・宮前区民祭にて広島、ウクライナのキッズゲルニカを展示。2 年目 2024 年は、川崎市子ども夢パーク共催、川崎市教育委員会後援、パルシステムたすけ合い基金助成にて川崎にて新しく 5 月・6 月中、4 回にわたり実施。川崎市を中心に延べ 80 名の 2 歳から 14 歳が参加した。同年 8 月約 1 カ月間は長崎の爆心地公園近くの川沿いに、長崎やアメリカ、インドネシアの 10 作品とともに展示された。その後、久地商店会、大山街道ふるさと館まつり、全国都市緑化かわさきフェア生田緑地会場、JA 高津、まちかつフェス高津、制作場所の夢パークなど市内 7 か所にて展示し多くの市民の目に触れた。

写真



実施結果

【制作】こどもたちは大きなキャンバスに自由に絵を描くことができることに大興奮！「平和って声に出してみよう」「平和ってどんな感じだろう」と体を動かしてワークした後、思い切り自由に絵を描くことを楽しむ子どもたちに大人は圧倒された。口を出したくなるが、後で「それを堪えるのが大変でした」という保護者も。最初は銘々が日常に当り前にある平和を連想するもの「平和のおにぎり」、「平和の目玉焼き」「平和の夜空」などを描いていくが、そのうちに自然に周囲の描くものと調和をとりだしたことに驚いた。

【展示について】7か所の展示、すべて好評で大変感謝された。子どもの平和アートというプロジェクトが珍しく、また実際に展示するととてもきれいで迫力があり、イベントでも大変注目されたため目玉的役割も果たした。どのイベント主催者も好意的に展示のロープを結んだり手伝ってくれたので大変助かったが、自分たちだけで上からつすなどは、マンパワー的に課題が残る。しかし、新聞も積極的に取り上げ、現在直面している不安な世界情勢に関心を持つ機会となることを確信した。

課題と展望

2023 年 川崎市平和館・宮前区民祭の展示

2024 年 キッズゲルニカ制作の経験・川崎市内7か所での展示

上記の経験を踏まえて、今後は立ち上げ当初から決めていたように、高津区内の 4 か所のお寺が行う「花祭りスタンプラリー」に乗り、お寺の敷地を借りて 3 点のキッズゲルニカ展示・パネル展示を、規模は小さくても継続して展示を行うことで、平和を啓発していく。

その過程の中で展示したいという協力団体や協力企業を探す。また、展示を見た川崎市民や団体が制作を希望した場合、これまで培ったノウハウを共有したり、キッズゲルニカ国際委員会への橋渡しの役割を担い HP など、その活動を紹介し、ネットワークを広げていく。

団体名	ボランティアグループ amico	事業名	0歳からの参加型コンサート 【10/19】音楽探検隊！世界の人々と共に♪ 【12/1】amico サンタがやってくる！届けようみんなの「きもち」
-----	------------------	-----	--

実施内容

【10/19】

「食育」及び「多様性」をテーマに音楽に合わせて造形や創作をしながら、和食を始めとした世界のいろいろな国の食べ物について学ぶ食育コンサート

家庭にありよく使う身近なもの（タオル、調理器具のボウル、靴下、洗濯ばさみ等）を利用し、音楽に合わせて、それらを料理に見立て創り上げていく劇をミュージカル仕立てで公演。登場人物それぞれが抱える悩みを解決していくストーリーにし、世界の食文化への興味関心を高め、学ぶ食育につなげた。世界の挨拶、多国籍の文化にちなんだ曲を手遊びやカップス、ペープサート等を用いた演奏。

【12/1】

音楽劇【妖精と靴屋】／クリスマスふれあい遊び歌、手遊び歌

SNS の普及が進む昨今だが、「手紙」を書く経験や「気持ち」を大切な人へ伝えることをテーマに企画した。音楽劇では、クリスマスに起きた不思議で温かな物語から、「お互いを思いやる気持ちの大切さを届ける」演目となっている。

幼児から小学生の子どもも出演し、多世代での公演を実現した。また、お客様自身にも小道具や衣装を使い舞台に参加してもらい、劇中も会場が一体となるように工夫し実施。

0歳児から参加しやすいよう楽器を鳴らしたり、身体を動かせる子どもには振付で、言葉が出る年齢では歌で参加してもらおうなど、それぞれの年齢に合わせた場面をつかった。

クリスマスふれあい遊び歌、手遊びの部では、お客様からサンタさんへのお手紙を書いてきてもらう、歌に合わせてクリスマスにちなんだモノが出来上がる、手遊びで身体を動かしながら音楽を楽しむなど、お客様が能動的に演目を楽しめる参加型コンサートを目指した。

実施結果

【10/19】

- ・世界の国々の音楽に合わせて体を動かし、楽しそうに歌う子どもたちの姿が見られた。
- ・出演者として小学生もナレーションで参加し、子供が親しみを持って聴くことが出来た。
- ・身近な材料を使って食べ物を表現する創作活動では、子供たちの豊かな発想力に驚かされる場面もあった。
- ・アンケートでは、9割以上の子供たちが世界の食べ物に興味を持ったとの回答を得た。
- ・子どもたち同士の交流をきっかけとし、親世代同士での交流も見られ、親子の居場所や交流の場の提供ができた。

【12/1】

- ・音楽劇では、子どもたちが舞台上で登場し、クリスマスの物語を生き生きと演じることで、年齢の近い子どもたちに親しみを持ちつつ観劇していただけた。
- ・コンサートの参加を受動的なものではなく、能動的なものにすることで、自分事として演目のテーマを感じていただけた。
- ・お客様からは「家族全員で楽しめた」「子どもたちが元気に舞台上に立っていて、とても感動した」、「会場が一体となる瞬間が素晴らしかった」といったご感想を頂戴した。
- ・手紙を書く、ポストへ入れる。などの経験を通し気持ちを言葉や絵で表現することを体験していただいた。
- ・過去公演時からのリピーターも多く、お客様同士の絆も深まった。

写真



課題と展望

【10/19】

- ・将来的に紹介する国の数を増やしたり、より深い食文化の紹介を盛り込みたい。
- ・アンケートにより頂いた、子育て世代ならではの悩みに寄り添う企画を考えていきたい。（食ベムラがある、食べるのに時間がかかる、好き嫌いなど）
- ・今回のコンサートを定期的に開催し、より多くの子供たちに世界の食文化に触れる機会や、子育て世代の居場所、交流の場を提供したい。
- ・集客において、Instagram等SNSの利用やチラシの配布を行ったが、さらに効果的に企画を周知できる方法を模索したい。
- ・幼児や小学生だけでなく、中学生等より広い年齢層を対象としたコンサートを企画する。

【12/1】

- ・子供たちの集中力を維持し、質の高いパフォーマンスを実現するために、短い練習時間を効果的に活用する必要がある。
- ・学業や仕事、家庭との両立も考慮し無理のない練習スケジュールを組む必要がある。
- ・ミュージカルや手遊び歌を通して、子供たちの表現力、協調性、創造性を育む場とする。
- ・成功体験を積み重ねることで、子供たちの自信と自己肯定感を高める。
- ・リピーターの方だけでなく、新規の方も居心地の良い空間となるよう心がける。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	はじめてのベビーリトミック	事業名	はじめてのベビーリトミック
-----	---------------	-----	---------------

実施内容

当団体は未就学児、または妊産婦さん向けのリトミック付き赤ちゃんサロンを開催しており、助成金事業として、ホールを借りて、毎月の通常開催にはちょっと来ることが出来ない遠方のお子さんもコンサートなら参加してくれるかなと、お母さん・お父さんがお子さんと一緒に出かけのきっかけとして開催しています。7月は夜店も楽しんでもらえるミニ夏祭りコンサートを12月にはクリスマスコンサートの2公演を助成金を頂き開催致しました。コンサートは基本的に生演奏で行い、赤ちゃん連れでは参加をためらってしまう親御さんにも「泣いても OK、騒いでも OK、演奏中に演奏者に会いに来てくれても OK」をお伝えし、気軽に参加して頂いています。

実施結果

7月ミニ夏祭りコンサートは当日参加が 35 組、12 月クリスマスコンサートは当日参加が 50 組でした。ホールの収容人数には限界があったり、多く入って頂くと狭く感じたり、また感染症予防対策から少なめに受付しています。ですのでキャンセル待ちを設定し、毎回のキャンセルが出ている人数から、これくらいはキャンセルが出るであろうと推測し受付しています。これは当団体が、当初より「当日の赤ちゃんの体調不良によるキャンセルも費用を頂かない」としており、だからといって運営が赤字になってはいけませんので、そのように対策しています。子育てをしている親御さんがどんなに頑張っても体調不良はありえることですし、無理してお越し頂くとホールでの感染拡大の危険性が出てきますので、参加費用を無駄にせず、次回は体調を整えて参加したいですなど、必ず連絡を下され、キャンセル待ちの方にも余裕をもって案内できています。

写真



課題と展望

今年度開催してみて次年度の課題は、毎回悩んでいるベビーカー置き場問題です。2階にホールがあり7割はベビーカーでの来場ですので、エレベーターが大混雑します。そこで考えたのが1階のお部屋を1室借りてエレベーターにベビーカーを乗せずに少しでも早くお帰り頂く方法です。こちらは施設の職員さんにも相談した対策です。すでに7月 10 日(木)のミニ夏祭りコンサートはホールと別室の予約を完了しており、次年度は 12 月のクリスマスコンサートも同対策で事業を計画しております。また次年度は助成金申請を見送り、基本的に参加者様から頂いた費用で事業を開催し、次年度の反省点を踏まえて、2026年度は5周年事業として助成金申請し、更なるレベルアップをしたいと考えております。試行錯誤を繰り返して、よりよい団体運営をし、川崎市民の皆様に、知ってもらえるように、イベントなどにお声がけ頂けるように努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

団体名	川崎むすびの会	事業名	浴衣他装教室・紋付き袴他装教室・振袖着付け体験
-----	---------	-----	-------------------------

実施内容	実施結果
浴衣他装教室 7 回	・昼の部と夜の部併せて 7 回の浴衣他装教室では 36 人が参加し満足度 100%のアンケート結果が得られた
紋付き袴他装教室 5 回	・5 回の紋付き袴他装教室では 35 人が参加し満足度 100%のアンケート結果が得られた
振袖着付け体験 4 回	振袖・紋付き袴体験は 3 回の予定だったが申し込みがあった為 4 回おこなった。

写真	課題と展望
    	・浴衣他装教室 参加者の技術習得機会を増やすため開催回数を多く設定していました。しかし、実際は一回の満足度が非常に高かったこともあり、回を重ねるごとに参加者が減ってしまいました。来期は、開催回数の縮小を検討しつつも、一回の充実度をさらに高めることで継続的な参加を狙っていきます。 ・紋付き袴教室 参加希望者の多い結果となりました。しかし、想定より着付モデルへの負担が大きかったことで体調不良者がでてしまったことが反省点であります。一回の充実度が高く、回を重ねるにつれて継続参加者が減ってしまいました。着付モデルへの負担も考え回数の縮小、人材確保、また充実度をさらに高めた運営をしていきたいと思います。 ・振袖着付け体験知名度が上がり問い合わせが多かったので、引き続き前年度より多く開催したいと考えております。